

摂食・嚥下せつしょく えんげ評価のご紹介

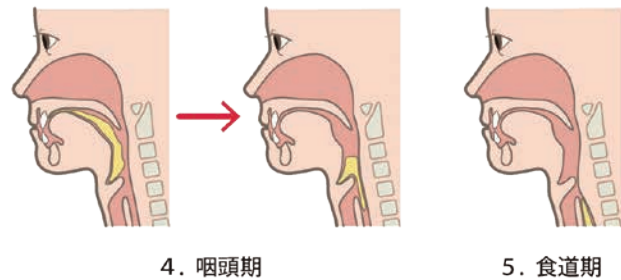
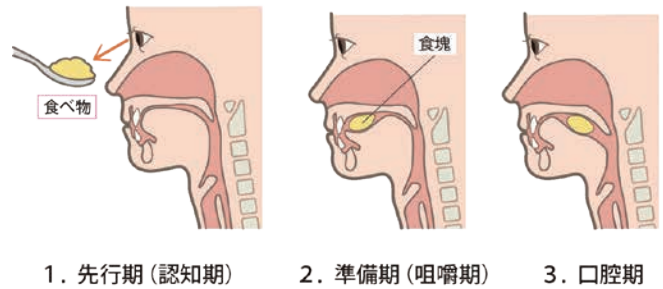
食事が口から食べられずにお困りになってはいませんか？

摂食・嚥下障害（飲み込みの障害）とは

摂食・嚥下とは、飲み物や食べ物を認識し、口に取り込み、喉と食道を経て胃に送り込む機能の事です。

この機能に異常が起こる（動き・感覚が悪い）ことを嚥下障害と言います。

原因としては、脳血管障害等による神経障害や、腫瘍や先天奇形等の器質的な影響、その他加齢や心理面等、多岐に渡ります。



摂食・嚥下障害で起こる問題点

上手に食べる事ができないと以下の問題点が起こるとされています。

- 口から食べられない事から、栄養不良や脱水症となりやすいです。
- 飲み物や食べ物が気管や肺に入りやすく（誤嚥）、窒息や肺炎の可能性が高まります。
- 食べる楽しみが失われる事で、生活の質が低下します。



食事場面の観察ポイント

嚥下障害のある方は、以下の症状が認められやすいです。
疑われる場合は早期に受診して頂く事が望ましいです。

- 食物の認識 : 食事がきてもキョロキョロしている
- 食べこぼし : 口に入る前にこぼしている
- 一口量が多い : 飲み込んだ後に口の中に残る
- 溜め込み : 口の中にずっと溜め込んでいる
- 咀嚼 : 噛まずに丸飲みしている
- 咳 : 食事中や食後の咳が多い(時間や食べ物の種類にも注意)
- 痰 : 食べかすが混ざる、食事を始めてから量は増えていないか
- 声 : 食事中、食後に声質が変わる
- 疲れ : 食事の途中から疲れてしまう(40分以上と遅い)

摂食・嚥下評価の流れ

新規相談・予約制

外来受診日の予約をお願いします

地域連携室 TEL.0144-55-8811 (代表)

外来受診

- 医師による診察、適応の判断
- 摂食・嚥下評価(VF・VE検査)の予約

※かかりつけ医がいる場合は、かかりつけ医と相談の上診療情報提供書の持参をお願いします

評価当日

- 摂食・嚥下評価の実施
- 適応者のみ入院での摂食・嚥下指導の実施

▶ 以上のような症状があり、お困りの方はご相談ください



社会医療法人平成醫塾

苦小牧東病院

地域連携室

TEL.0144-55-8811